

【週報】あかし保健所管内 定点把握・全数把握 感染症発生動向調査2025年第29週(2025/7/14～2025/7/20)

＜定点把握対象感染症発生状況(定点医療機関あたり患者数)＞

小児科定点(7医療機関)										
疾病名称 【警戒レベル基準】	2025年									
	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週	27週	28週	29週
	5/12～	5/19～	5/26～	6/2～	6/9～	6/16～	6/23～	6/30～	7/7～	7/14～
RSウイルス感染症	0.29	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.14
咽頭結膜熱 【3.00～】	0.43	0.14	1.29	1.14	1.43	1.29	2.43	1.00	0.29	0.71
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 【8.00～】	1.57	1.57	0.86	1.57	1.57	1.43	1.29	1.43	1.57	1.29
感染性胃腸炎 【20.00～】	13.29	11.71	8.71	10.14	8.71	8.29	6.29	7.57	4.86	4.86
水痘 【2.00～】	0.29	0.14	0.00	0.43	0.29	0.29	0.43	0.14	0.57	0.57
手足口病 【5.00～】	0.00	0.00	0.00	0.00	0.29	0.00	0.00	0.29	0.14	0.14
伝染性紅斑 【2.00～】	1.14	2.14	2.00	3.43	3.57	5.29	2.86	4.29	3.57	3.43
突発性発しん	0.86	0.86	0.29	0.43	0.14	0.14	0.57	0.71	0.14	0.43
ヘルパンギーナ 【6.00～】	0.00	0.43	0.29	0.14	0.71	0.86	2.86	3.29	3.14	2.29
流行性耳下腺炎 【6.00～】	0.14	0.43	0.00	0.29	0.14	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00

インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症定点(11医療機関)										
疾病名称 【警戒レベル基準】	2025年									
	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週	27週	28週	29週
	5/12～	5/19～	5/26～	6/2～	6/9～	6/16～	6/23～	6/30～	7/7～	7/14～
インフルエンザ【30.00～】	1.00	1.27	0.73	0.27	0.18	0.00	0.00	0.09	0.36	0.27
新型コロナウイルス感染症	0.45	0.64	0.36	0.45	0.55	0.55	0.82	1.00	1.00	1.64

眼科定点(2医療機関)										
疾病名称 【警戒レベル基準】	2025年									
	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週	27週	28週	29週
	5/12～	5/19～	5/26～	6/2～	6/9～	6/16～	6/23～	6/30～	7/7～	7/14～
急性出血性結膜炎【1.00～】	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
流行性角結膜炎【8.00～】	0.50	1.50	0.00	0.00	0.00	0.00	0.50	0.00	0.50	0.00

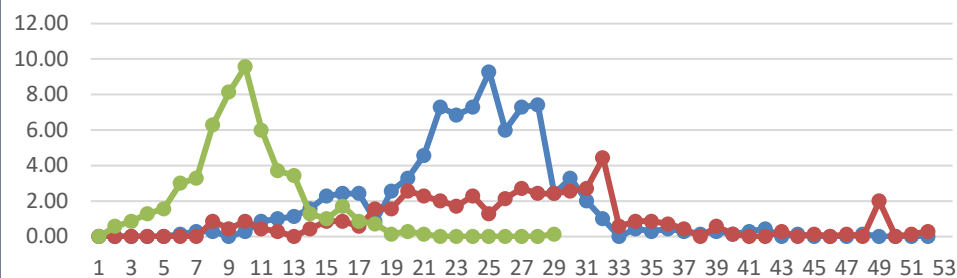
<全数把握対象感染症発生状況>

[illegible]

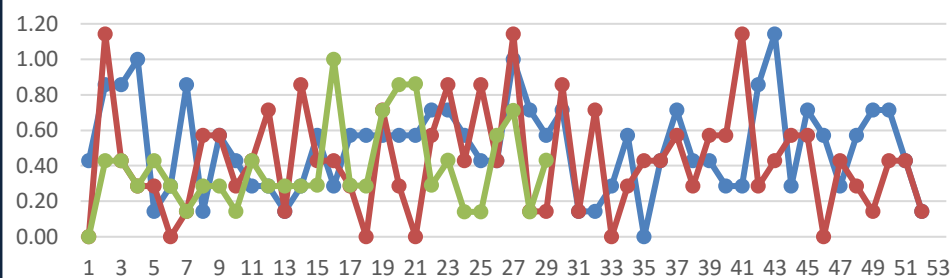
定点把握対象感染症発生状況(グラフ／過去3年間)

2023年 2024年 2025年

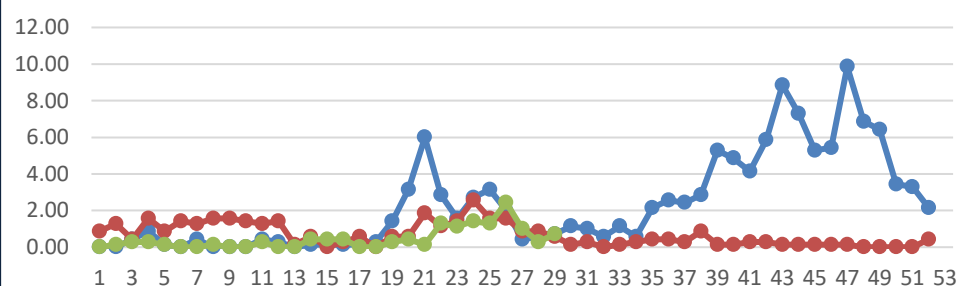
RSウイルス



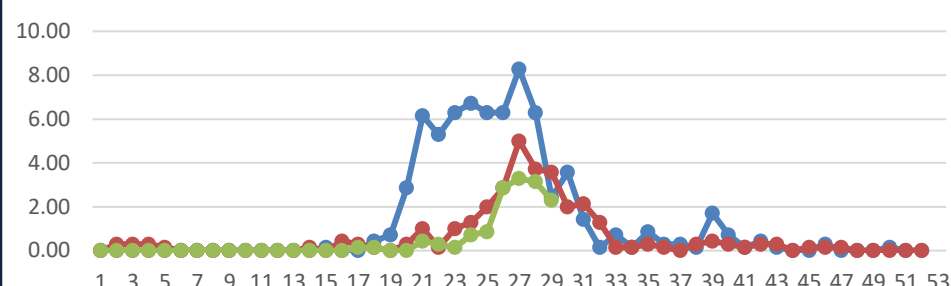
突発性発しん



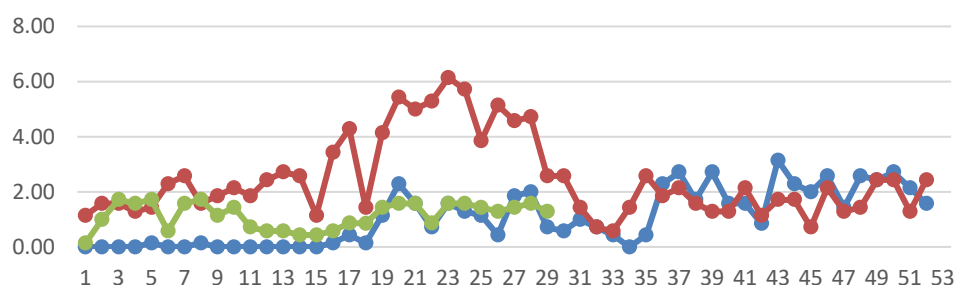
咽頭結膜熱



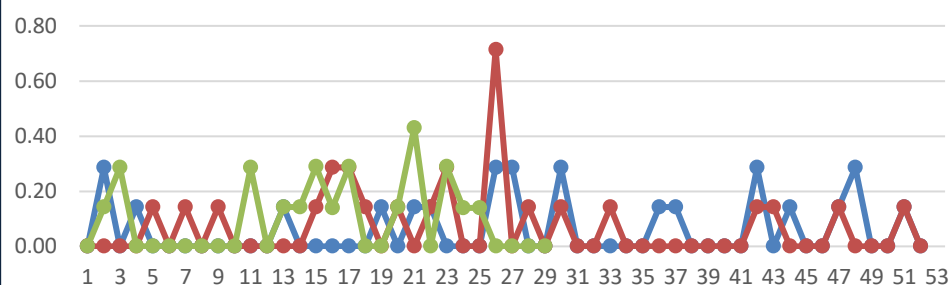
ヘルパンギーナ



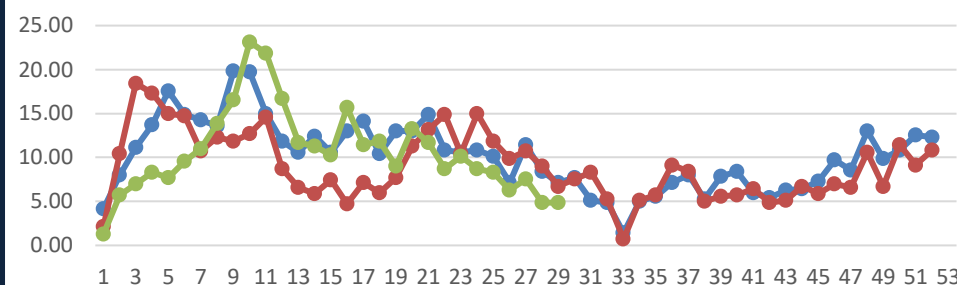
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



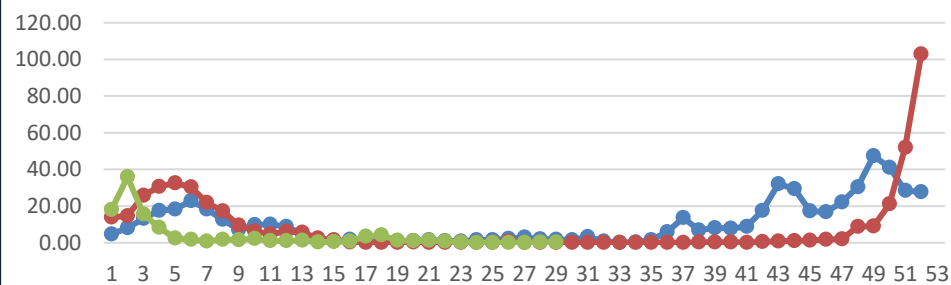
流行性耳下腺炎



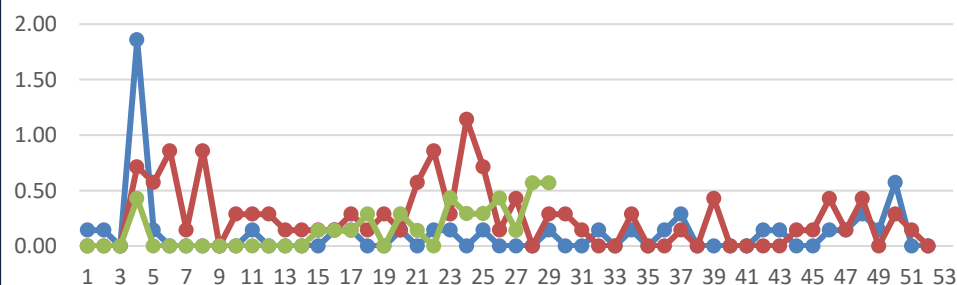
感染性胃腸炎



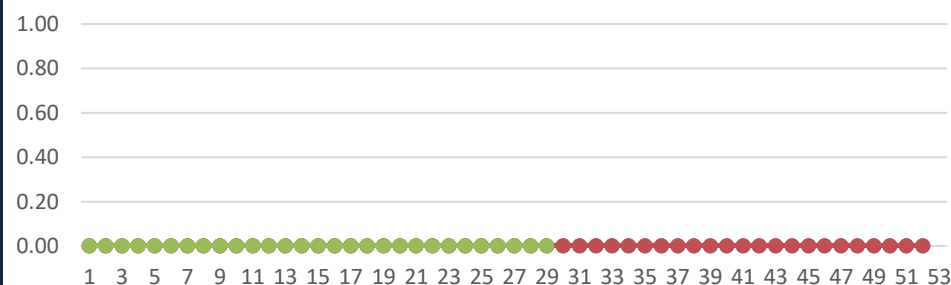
インフルエンザ



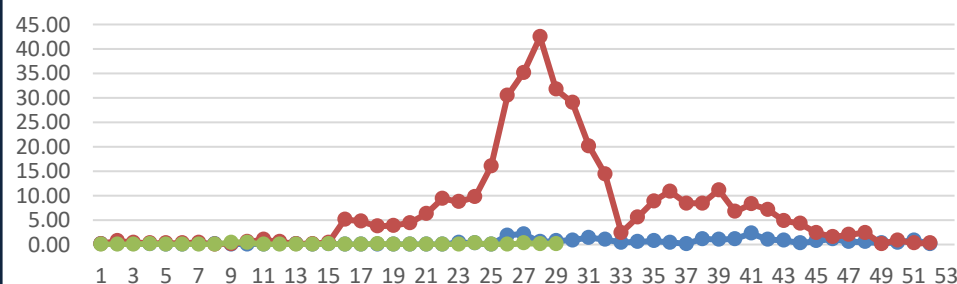
水痘



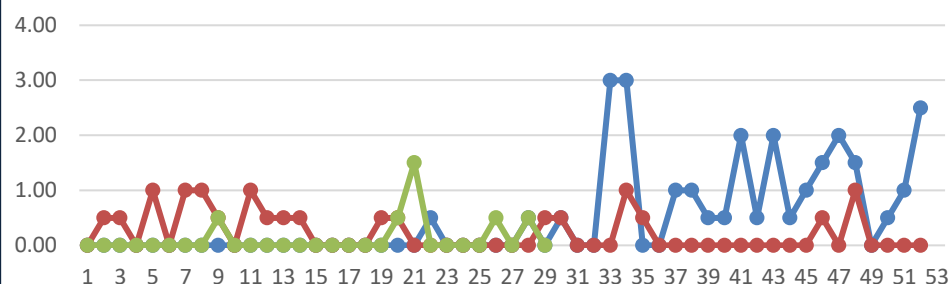
急性出血性結膜炎



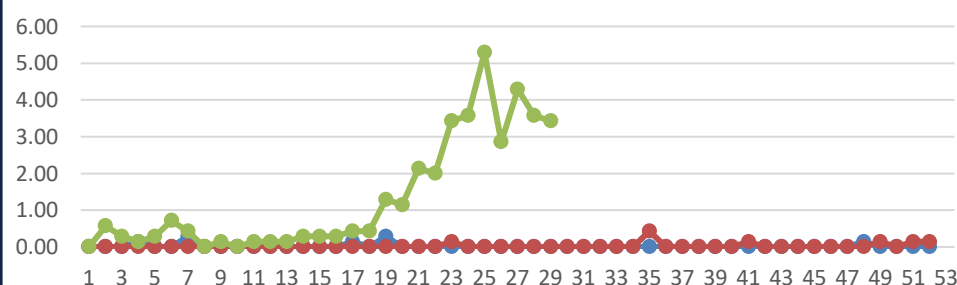
手足口病



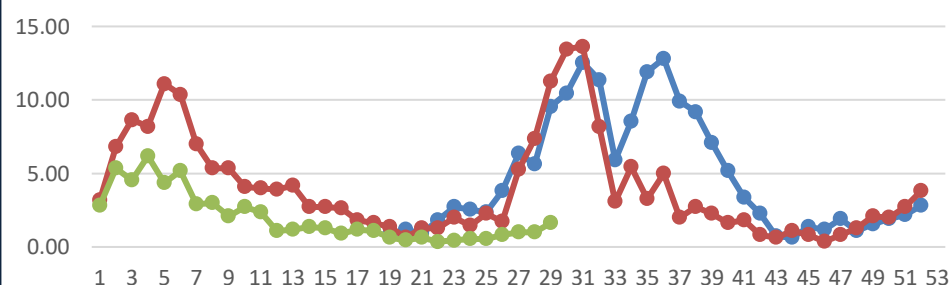
流行性角結膜炎



伝染性紅斑



新型コロナウイルス感染症



【急性呼吸器感染症(ARI)サーベイランスの目的】

急性呼吸器感染症(ARI) の定義に合致する症例数及び収集された検体又は病原体から、各感染症の患者や病原体等の発生数を集計し、国内の急性呼吸器感染症(ARI)の発生の傾向(トレンド)や水準(レベル)を踏まえた、流行中の呼吸器感染症を把握する。また、新興・再興感染症の発生を迅速に探知する。

【急性呼吸器感染症(ARI)の症例定義】

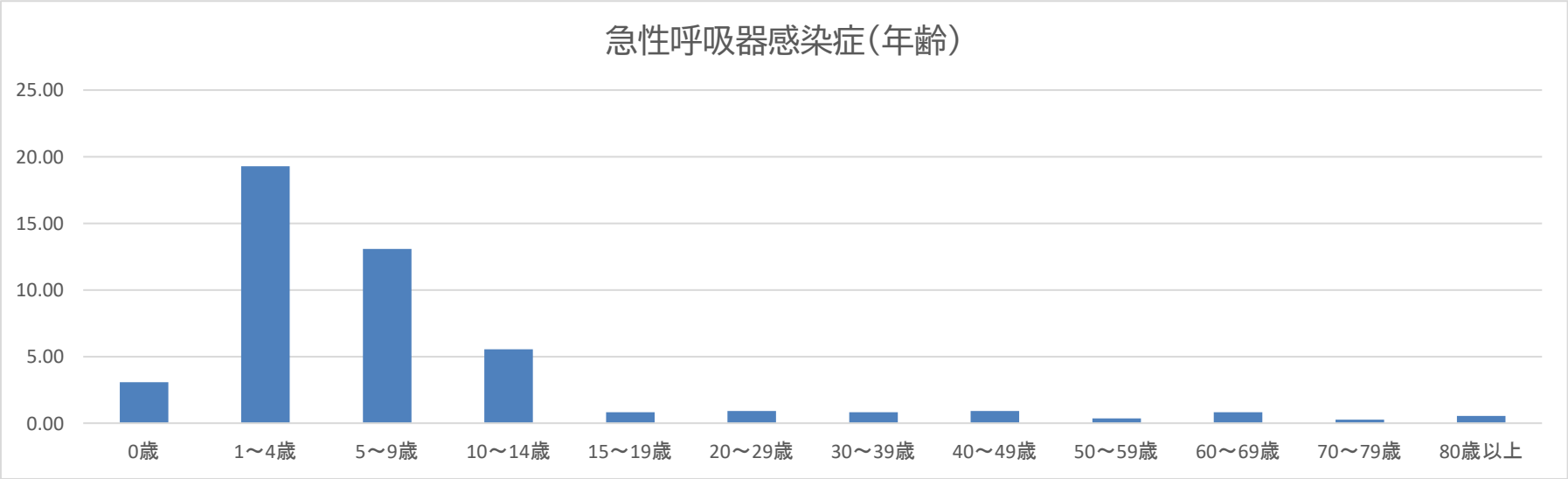
咳嗽、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁、鼻閉のいずれか1つ以上の症状を呈し、発症から10日以内の急性的な症状であり、かつ医師が感染症を疑う外来症例。

< 定点把握対象感染症発生状況(定点医療機関あたり患者数) >

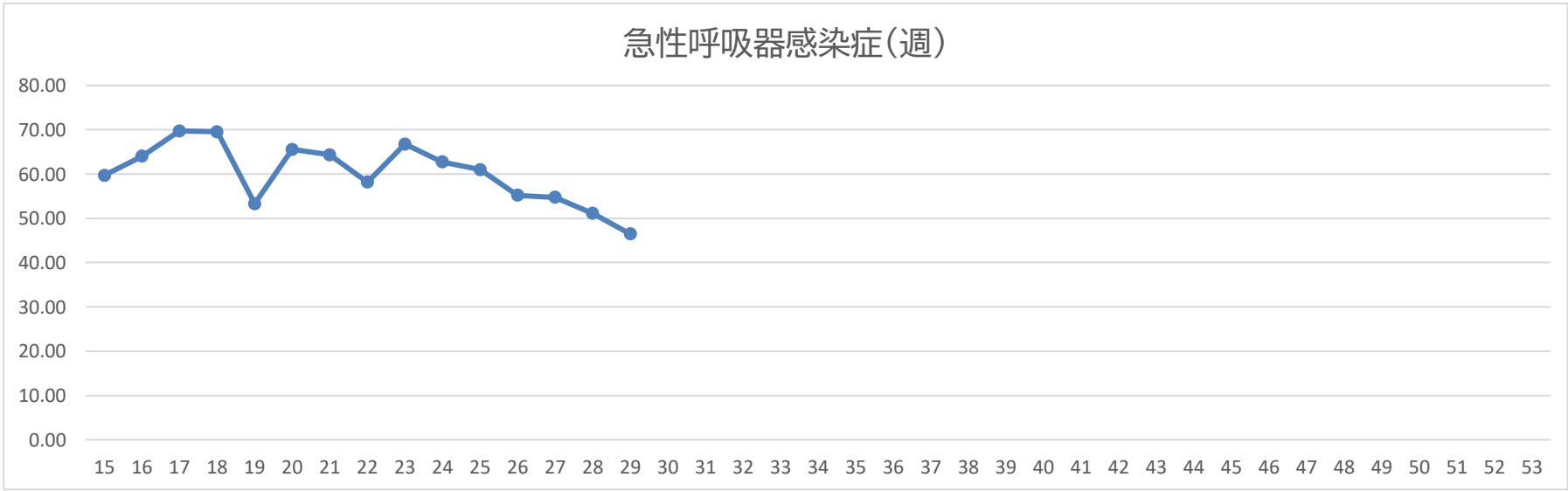
急性呼吸器感染症定点(11医療機関)		2025年									
疾病名称		20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週	27週	28週	29週
		5/12～	5/19～	5/26～	6/2～	6/9～	6/16～	6/23～	6/30～	7/7～	7/14～
		5/12～	5/19～	5/26～	6/2～	6/9～	6/16～	6/23～	6/30～	7/7～	7/14～
急性呼吸器感染症		65.55	64.36	58.18	66.73	62.73	61.00	55.18	54.73	51.09	46.45

急性呼吸器感染症定点(11医療機関)			2025年									
年齢階級			20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週	27週	28週	29週
			5/12～	5/19～	5/26～	6/2～	6/9～	6/16～	6/23～	6/30～	7/7～	7/14～
			5/12～	5/19～	5/26～	6/2～	6/9～	6/16～	6/23～	6/30～	7/7～	7/14～
【急性呼吸器感染症(ARI)定点の対象疾患の範囲】 具体的にはインフルエンザ、COVID-19、RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、ヘルパンギーナ、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、新たに五類感染症に位置づける「急性呼吸器感染」を対象疾患とする。	0歳		5.27	6.00	5.27	5.27	4.82	5.27	4.82	4.45	3.73	3.09
	1～4歳		29.09	29.45	28.00	29.36	27.45	26.91	24.73	22.91	20.91	19.27
	5～9歳		14.91	15.27	12.91	18.36	16.09	14.18	14.36	16.09	14.55	13.09
	10～14歳		7.27	5.45	6.27	5.91	7.36	6.27	4.82	5.45	5.64	5.55
	15～19歳		2.27	1.00	0.73	1.00	0.82	2.91	0.91	1.00	0.55	0.82
	20～29歳		1.27	1.55	1.09	0.82	0.82	1.00	0.73	0.45	0.91	0.91
	30～39歳		2.00	1.45	1.00	1.82	1.27	1.45	1.09	1.00	1.45	0.82
	40～49歳		1.18	1.09	0.73	1.09	0.91	1.45	1.09	0.55	0.55	0.91
	50～59歳		0.82	1.09	0.18	0.91	0.55	0.55	0.91	0.55	1.27	0.36
	60～69歳		0.64	0.64	0.82	0.45	1.18	0.45	0.64	0.91	0.64	0.82
	70～79歳		0.64	0.91	0.55	1.18	0.73	0.45	0.27	0.55	0.55	0.27
	80歳以上		0.18	0.45	0.64	0.55	0.73	0.09	0.82	0.82	0.36	0.55

急性呼吸器感染症発生状況(年齢) 2025年第29週



急性呼吸器感染症発生状況(週)



リンゴ病

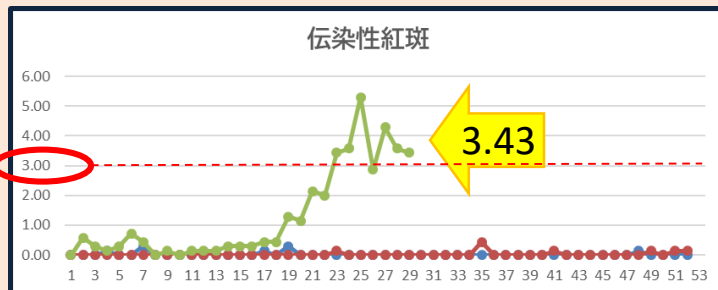


でんせんせいこうはん 伝染性紅斑

が流行しています！

流行状況

定点医療機関あたりの患者数が、
2025年21週から警戒レベル「2.0」を超え、
29週も「**3.43**」と警戒レベルを超えて継続
しています。



伝染性紅斑とは

ヒトパルボウイルスB19による感染症で、小児を中心にみられる発しん性の病気です。両頬がリンゴのように赤くなることから、「リンゴ病」と呼ばれることもあります。

多くの場合、頬に発しんが出現する7～10日くらい前に、微熱やかぜのような症状がみられ、この時期にウイルスの排出が最も多くなりますが、発しんが現れたときにはウイルスの排出はほとんどなく、感染力もほぼ消失しています。

症状

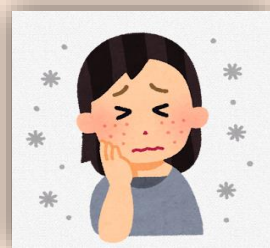
微熱



風邪のような症状



両頬の紅斑



*妊娠中又は妊娠の可能性のある方へ

これまで伝染性紅斑に感染したことの無い女性が妊娠中に感染した場合、胎児にも感染し、胎児水腫などの重篤な状態や流産のリスクとなる場合があります。

伝染性紅斑を疑う症状がある場合は、医療機関に相談しましょう。

予防方法

マスク・手洗い

マスクの着用や流水と石鹸による手洗いをしっかりとしましょう。

共有しない

タオルや食器は共用しないようにしましょう。

症状がある場合は、早めに**医療機関を受診**しましょう。